

いただきたい。

健康福祉部長 先天性代謝異常の新しい検査法であるタンデムマス検査は、新生児に対し血液を採取して生まれつきの病気を調べる検査で、より多くの病気の有無を調べる事が可能となった。

厚生労働省からタンデムマス検査の有効性が認められ、平成二十三年三月に都道府県及び政令指定都市に対して、積極的に導入を検討するよう通知があり、栃木県では平成二十四年度予算に検査費約四千九百万円を計上することである。検査機器の整備や治療可能な医療機関の確保、疾病が判明した乳児、保護者に対するフォロ―体制の整備などに時間を要するため、平成二十四年度後半からの実施になるとのことである。

なお、この事業はこれまでの六疾患の検査事業と同様に、栃木県が事業主体で、検査費の全額が県費負担で実施されるものである。

タンデムマス検査の

導入予定は

佐藤議員 栃木県の予算を見たところ、タンデムマス検査費四千九百万円が計上されている。栃木県でもできるならば、真岡市でもこれは導入できるなという思いがあったので、担当課でどのように県のほうから指導なりこの先について説明を受けているのか聞かせて

真岡コンピュータ・カレッジ跡地に移転する。規模も含めてどういうふうな形で進めるのか。そしてまた、保護者の反応はどのようなか伺いたい。

健康福祉部長 ひまわり園の移転先施設は、平成二年に旧真岡コンピュータ・カレッジ食堂として建設された床面積約四百平方メートルの鉄骨造であり、体育館も併設となる。改修にあたっては、保護者との話し合いで要望のあった点を考慮し、入口のバリアフリー化や個別相談室の設置、車いすでも可能な通路、トイレ、洗面台など、障がい児に合った改修とした。また、建物南側には、ブランコや鉄棒など、屋外での療育に必要な施設も新設する。さらに、併設の体

育館は、雨天時や冬期等の療育の場としての利用ができる。

療育内容についても、従来の音楽療法士や言語聴覚士等の機能回復訓練に加え、平成二十四年度からは、作業療法士の指導も実施し、さらなる療育の充実に努める。保護者の方からは、早く新しい施設への通園を望む声が多く寄せられている。今後は、保護者の要望でもある四月当初の開園を目指したい。

ひまわり園移転先の

施設の概要は

佐藤議員 ひまわり園は四月から、



移転先の ひまわり園